

令和元年6月25日現在

機関番号：10105

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K07597

研究課題名(和文) 管理獣医療の充実による家畜共済の保険化の可能性に関する研究

研究課題名(英文) Research on possibility of insurance of livestock mutual aid by improving veterinary services

研究代表者

仙北谷 康 (SEMBOKUYA, yasushi)

帯広畜産大学・畜産学部・教授

研究者番号：50243382

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：韓国における畜産経営はわが国と類似しているが、リスクマネジメントという視点からすると家畜保険は、デンマークにおける制度と多くの点で共通性を有する。畜産経営において飼養頭数が数10頭から数100頭におよぶようになると、年間数頭の家畜が、疾病等によって死亡する事故は稀な事故とはいえない。これは我々のシミュレーション分析から明らかである。大規模酪農経営にとって何が外部化しなければならないリスクなのかを明確にすることは、制度設計において重要である。家畜損防事業強化のために、デンマークにおけるような家畜疾病に関するデータベース構築は有効である。これを用いて生産獣医療を充実させることが重要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

わが国の家畜共済は、戦前からの長い歴史を有するものであり、わが国畜産の発展に大きく寄与するものであった。しかし、過去数十年の畜産農業の構造変化(畜産の専門化、大規模化)の中で、畜産経営が外部化しなければならないリスクが変化してきており、それに合わせて家畜共済制度もその見直しが必要であると考えられる。韓国やベトナム、さらにはデンマークにおける制度は、民間企業がかかわっており、制度の持続性と保険市場の存在を考える上で参考になる事例であるといえる。

研究成果の概要(英文)：The livestock production in South Korea is mainly based on family farming and it is relatively similar to that of Japan, however, the livestock insurance system of South Korea is common to livestock insurance in Denmark in many respects from the viewpoint of risk management. It is not uncommon for a few dairy cows to die each year in a dairy farming run with hundreds of cows. This is clear from our simulation analysis. For large-scale dairy farming, it is important in institutional design to clarify what is the risk that must be externalized. Database construction for livestock diseases like in Denmark is effective for strengthening livestock damage prevention business. It is necessary to make use of this and to enhance production medicine for the loss prevention business and improve animal production.

研究分野：農業経済学

キーワード：家畜共済 家畜保険 リスクマネジメント 生産獣医療 共済の保険化

1. 研究開始当初の背景

家畜共済制度に関する調査研究は、これまでのところ必ずしも十分とはいえない。しかし、大規模化・企業化した畜産経営の経営が安定するために、損害防止対策への期待はますます高まってきており、早急に対策をとる必要があること、また、これは所得補償対策と両立するものであり、経営の効率化にも貢献するものと考えられる。

申請課題開始以前に、北海道十勝地域の土幌町において、共済事業と乳検事業、農協営農指導事業等が、一体的に整備され、管理獣医療として農家にサービスが提供されており、家畜の共済価額に対する事故率(実質被害率)も顕著に低いことが明らかになった。また、ベトナムにおける酪農調査では、家畜保険制度がパイロット事業ながら民間企業によって提供されていることが明らかになり、家畜保険(共済)制度の多様性の存在が示唆された。現状の家畜共済制度を、管理獣医療充実の方向で再編・高度化することで、大規模企業畜産経営のニーズに応え、畜産経営の効率化に資することが可能であると考えられた。

2. 研究の目的

家畜病傷死廃事故対応の保険化とは、農業共済組合等にかわって民間企業等が事故対応サービスを提供することを指す。(1)現在の農業共済組合による家畜共済事業は、損害防止事業の充実がなければ、大規模化・企業化した畜産経営体の期待に十分に答えることができない。(2)そのためには畜産経営体に対する様々なサービスを統合した、管理獣医療体制の導入が必須である。(3)管理獣医療体制導入のために、民間事業者の家畜保険市場への参入を含め検討する必要がある。以上の点を調査・研究によって明らかにする。

3. 研究の方法

(1)日本、ベトナム、韓国、デンマークの酪農保険(共済)制度の比較により、民間企業による家畜保険サービス提供の可能性について検討する。

(2)酪農経営規模、家畜疾病の特性、酪農家の企業性等の違いと家畜保険(共済)制度の対応を検討し、比較制度論の視点から分析する。

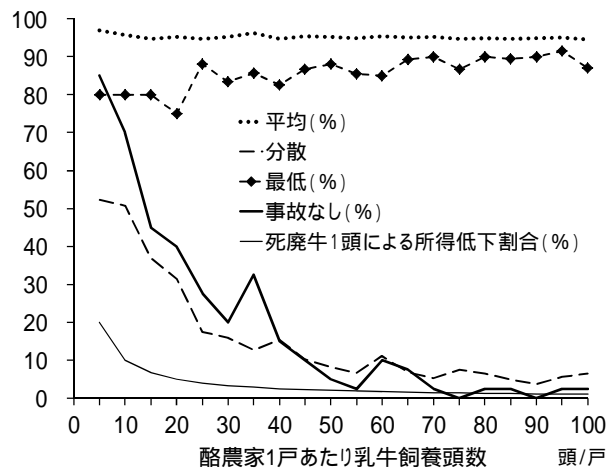
4. 研究成果

家畜共済制度の保険化を考える場合、畜産農家にとってのリスクは何か、という事を解明することと、そのリスクをマネジメントする手法として家畜保険は有効なのか、という点を明らかにすることが重要である。韓国における畜産経営は、わが国と比較的構造が似ている家族経営を主体としているが、そこで導入されている畜産保険制度は、リスクマネジメントという視点からは、デンマークにおける家畜保険と多くの点で共通性を有するものであった。しかしながら病傷対応という点では、韓国内の研究者からも問題点が指摘されている。リスクマネジメント手法としての家畜共済のあり方を明確にする上で重要な知見であると考えられる。

家畜死廃事故、病傷事故を減少させることは、家畜保険(共済)加入者にとっても、また家畜保険事業者にとっても望ましいことであるはずである。しかしわが国の家畜共済制度では、この点が制度的(インセンティブの体系として)に明確になっていない。その改善方向として土幌町の家畜共済制度には注目すべき点が多い。同町共済事業は、損防事業に力を入れ、かつ、組合員の中には死廃事故除外での加入者も多い。同町の共済制度は、経営の安定のため十勝農業共済組合と合併したが、今後の共済利用について引き続き検討するべきである。

家畜共済および家畜保険制度は、畜産経営体における経営上のリスクを外部的に、経営を安定させるための制度である。畜産経営において飼養頭数が数10頭から数100頭におよぶようになると、年間数頭の家畜が、疾病等によって死亡する事故は稀な事故とはいえない。この点は我々の価値共済調査およびシミュレーションによって明らかにされた。

家畜共済の保険化のためには、畜産経営体にとって何が外部化しなければならないリスクなのかを明確化することである。参考になると考えられるのがデンマークの家畜保険制度である。ここで特徴的なのは畜産経営にとってのリスクを、短期間に複数等の家畜が死亡することに限



乳牛飼養頭数増加にともなう所得の変動

注:死廃事故発生確率を5%としたシミュレーション

定している点である。これにより畜産経営が安定するとともに、民間企業が事業を提供できる。

この制度を導入するために、デンマークでは乳牛個体移動、疾病歴、乳検、等のデータベースが統合されており、家畜保険を提供する企業がこれにアクセスすることで、保険に加入しようとする酪農経営体の事故率を正確に計算し、公平な家畜保険サービスを提供できるようになっている。同時にこのデータベースに獣医師もアクセスすることが許可されており、適切な獣医療サービスの提供に活用している。このような生産獣医療の充実が家畜保険サービスを支えていると言える。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 3 件)

仙北谷康・窪田さと子・耕野拓一、家畜保険制度の比較制度分析 日本とベトナム
農業経営研究、査読有、第 53 巻第 4 号、66-71、2016

DOI https://doi.org/10.11300/fmsj.53.4_66

仙北谷康、金山紀久、酪農経営体における家畜共済の不保割合選択 - 北海道士幌町を事例として -、農業経営研究、査読有、第 55 巻第 2 号 (通巻 173 号) pp.45-50、2017

DOI https://doi.org/10.11300/fmsj.55.2_45

Hiroichi Kono, Satoko Kubota, Yasushi Sembokuya, Kohei Makita, Takehiro Nishida, Nguyen Thi Minh Hien and Tran Manh Hai, Animal Insurance and Farmer 's Behavior in Vietnam, Asian Journal of Agricultural Extension, Economics & Sociology, 査読有り, 16(2): 1-12, 2017; Article no.AJAEES.31910 ISSN: 2320-7027

DOI <https://doi.org/10.9734/AJAEES/2017/31910>

〔学会発表〕(計 2 件)

仙北谷康、金山紀久、Byung-Oh Lee、リスクマネジメントとしての家畜共済制度の改善方向、北海道農業経済学会、2017 年

仙北谷康、金山紀久、李 炳旻、リスクマネジメントとしての家畜共済制度の改善方向 日本・韓国・デンマークの比較分析を通して、日本農業経営学会、2018 年

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年：

国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：金山紀久

ローマ字氏名：(KANAYAMA, toshihisa)

所属研究機関名：帯広畜産大学

部局名：畜産学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：00214445

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。